

令和7年度 第1回 高砂市総合政策審議会 全体会

議事録

開催日時	令和7年5月26日(月)14:00~16:10					
開催場所	高砂市役所南庁舎5階大会議室					
会長 副会長	田端 和彦会長 浦山 剛史副会長					
委員 (名簿順、 敬称略) 出席者	出席	中尾 進	出席	阿部 伊三男	出席	松井 藍
	出席	松本 克英	出席	前田 弘子	出席	塩崎 篤史
	出席	寺延 順市	出席	山里 護	出席	濱田 耕資
	出席	濱中 美佐子	出席	竹内 茂雄	出席	中井 八重美
	出席	眞榮 和紘	出席	西牟田 和子	出席	松田 勝己
	出席	田端 和彦	—	東野 アドリアナ	出席	浦山 剛史
	出席	稲垣 稔	出席	大西 正起	出席	後藤 純次
	出席	大森 裕	出席	新井 誠三	出席	漣 隆司
	出席	飯塚 一哉	出席	逸見 信也	出席	藤田 光人
	出席	大竹 良次	—	寺田 和弘	出席 (代理)	野北 浩三
議事	<p>協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 会長、副会長の選出について (2) 部会の設置について (3) 審議会の公開について (4) 諮問について (5) 第5次高砂市総合計画令和6年度・令和7年度実施計画について (6) 第5次高砂市総合計画KPIの見直しについて (7) 地域再生計画の効果検証について <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 今後のスケジュールについて (2) その他 					
資料	<p>事前配付資料</p> <p>次第</p> <p>高砂市総合政策審議会委員名簿</p> <p>高砂市総合政策に関する条例</p> <p>高砂市総合政策審議会規則</p> <p>高砂市総合政策審議会の運営に関する規程</p> <p>総合政策審議会委員 部会名簿(案)</p>					

	<p>高砂市情報公開条例(抜粋)</p> <p>高砂市総合政策審議会の公開について(案)</p> <p>第5次高砂市総合計画実施計画(行政経営プラン)令和6年度と令和7年度</p> <p>第5次高砂市総合計画後期基本計画KPIの見直し(案)</p> <p>令和6年度地域再生計画に係る効果検証</p> <p>当日配布資料</p> <p>人口展望の状況について</p> <p>人口関連参考資料</p>
議事の経過	
<p>開 会</p> <p><資料の確認></p> <p><進行について説明></p> <p><出席者・事務局紹介></p> <p><会議の成立></p> <p><高砂市長 挨拶></p> <p><委員委嘱></p> <p><総合政策に関する条例、規則について説明></p>	
協議事項 1 会長、副会長の選出について	
<p>(事務局)</p> <p>資料に基づき、会長、副会長を定めることについて説明</p> <p>田端委員を会長、浦山委員を副会長として提案</p> <p>(委員一同)</p> <p>拍手で承認</p> <p>(会長)</p> <p>今朝も後期基本計画について、兵庫大学の学生も含めて議論をしたいということで、企画課の方々とディスカッションをした。後ほど、人口の話が出てくるが、若年人口をどのように高砂市に引きつけていくのかが非常に大きな課題になる。おそらくこれが後期基本計画においても重要な柱になるのではないかと。</p> <p>様々なかたちで皆さまのご意見を賜りながら、浦山先生を含め、本学の学生たちも関わりながら、高砂市の発展のために、少しでもお力になりたい。よろしく願います。</p> <p>(副会長)</p> <p>以前は上郡町で行政評価委員会の会長も務めていた。そこでの経験と、昨年度、副会長を務めた経験を活かし、少しでも貢献できればと考えている。</p> <p>また今年度も、数名の方を選ばせていただき、グループワークというかたちで意見を出し合うことを何回かさせていただく予定である。ご協力をお願いします。</p>	

協議事項 2 部会の設置について

(会長)

部会の設置について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

資料に基づき、部会の設置、部会名簿(案)について説明

(会長)

部会の名簿を案として配付しているが、ご異議ないか。

(委員一同)

異議なし

(会長)

それでは今後、この第1部会、第2部会での審議をお願いします。

続いて、それぞれの部会の部会長の選出について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

第1部会の部会長を浦山副会長、第2部会の部会長を田端会長とすることを提案

(会長)

私及び副会長の専門性を活かしたかたちで事務局から提案があった。何かご質問、ご意見はあるか。

(委員一同)

質問等なし

(会長)

協議事項となっているため、拍手をもって承認いただけるか。

(委員一同)

拍手で承認

(会長)

それでは第1部会を副会長、第2部会を私として進めていく。以降の審議会で部会に分かれての開催の際にはよろしくをお願いします。

協議事項 3 審議会の公開について

(会長)

事務局から説明をお願いします。

(事務局)

資料に基づいて、高砂市総合政策審議会の公開(案)について説明

(会長)

前年度と同様の内容だが、先ほど部会を設置したところ、第1部会の議論を聞きたい場合に第2部会の皆さまが傍聴する、またその逆も然りということ。時間に余裕があれば情報共有する機会にもなる。特にご異議なければ、原則公開ということで進めたい。

(委員一同)

異議なし

(会長)

異議なしということで、承認する。

協議事項 4 諮問について

(会長)

事務局から説明をお願いします。

(事務局)

資料に基づき、第5次総合計画の変更に関する諮問について説明

<市長から会長へ諮問書の交付>

協議事項 5 第5次高砂市総合計画令和6年度・令和7年度実施計画について

(会長)

事務局から説明をお願いします。

(事務局)

資料に基づき、実施計画について説明

(会長)

令和7年度の重点評価指標は、第5次総合計画前期基本計画における、ある意味集大成と言える。数値が出ている部分で、大きな問題点としては、総人口や出生数、転出超過者数といった人口

の部分である。これらの項目はかなり注目されており、皆さまからもご意見をいただきたいと思い、詳しく説明をいただいた。

グループワークができる席にさせていただいているため、各グループでどういうところに注目されたか、皆さままで意見交換をしていただき、そのうえでご質問・ご意見を賜りたい。皆さま様々なご意見をお持ちだと思うが、話し合うことでそれが少しまとまるかと思う。10分程度時間をとるため、よろしく願います。

<グループに分かれて議論>

(会長)

グループごとにどのような意見が出たのかを話していただきたい。

(委員)

このグループで話したポイントは、人口が将来どうなっていくかである。先ほど資料で社会増減、自然増減について説明があったが、この中で自然増減が年間約600人の減と出ている。この傾向が続けば、今後5年で約3,000人も減る。加えて社会増減でマイナスになれば、令和12年の8万4,000人という目標に対するギャップは非常に大きい。

一番の原因としては、やはり若年層が出て行ってしまっていることが原因ではないか。若年層の方が出て行き、労働力を補うために外国人の方が来られ、外国人だけで見ると増加している。

社会増減をどのように増やすかについては大きく二つ。一つが働く場所を高砂市にさせていただくという観点、もう一つが働く場所は高砂市でなくとも、住む場所を高砂市にさせていただくという観点で社会増減をプラスに転じさせることが必要なのではないかという議論をした。

(委員)

このグループでも注目したところは人口のところであり、人口減少の一番大きな問題が転出超過であるということで意見が一致した。資料の中で20代の転出超過が一番多いが、根本的な原因がどこであるかが重要。

20代でも、22歳、24歳で大学あるいは大学院の卒業で高砂市から出てしまっているのか、それとも20代後半で出て行ってしまっているのか、その違いで根本的に対策を打つべきところが違ってくると思う。就職を機に高砂市を出てしまうことに関しては、高砂市もしくは近隣で就職できれば、高砂市を選んでもらい残ってもらえると思う。しかし、全国展開をしているような企業に就職すれば、配属先次第で出て行ってしまうことは仕方がない部分でもある。

まず、その20代の中でも転出超過の原因がどこにあるのか、就職で出て行ってしまっているのか、それともある程度、生活が安定してから、あるいは結婚を機に出て行ってしまっているのか、この部分に注目すべきと考える。

その他にも、資料の中で、0～9歳については転入超過であるというところ、この世代の子たちだけが上がることは本来あり得ない。不幸なことに何かがあり、福祉施設に入所した場合はそこに住民票を移すだろうが、理由がこれだけとは考えられないため、結局20代、30代については、転出超過ではあるものの、高砂市を選んで転入する方もいると考えられる。逆に、この0～9歳の転入超過があるということであれば、この世代やその親世代に向けた施策を打っていくことで、転入を

さらに増やす、あるいは転出を減らしていけるのではないかという意見が出た。

また、高齢の方については、元気で健康なまま活躍をしていただき、役割を持っていただく。その方々に子育て等々の支援をしていただくことで、協働した社会ができるのではないかと考える。

(委員)

このグループでは社会増減について、20代の転出超過が大きな割合を占めているところに注目した。

市外、県外に行った大学生が、そのまま就職をして帰ってこないことも当然多くあろうかと思う。しかし、実際に地元に戻ってくるという部分について対策をとることで、高砂市を出て行った方でも帰ってくる。これも一つの方法であり、取り組むべきところと考えた。

その中で、高砂市においては、従来からプライダル都市として様々な施策をされていると思うが、高砂市内で結婚式を挙げていただくといった、高砂市ならではの厳かな式をPRしながら、婚姻数を増やしていく。そのような取組を進めながら、PRをしていく必要がある。当然、今でも広報等をされているかと思うが、SNSの活用であるとか、他市に負けないようなPRの部分を強化していくことも必要ではないかという意見が出た。

また、住みよいまちに関し、実際に待機児童がゼロということについて、高砂市は近隣の中でも非常に子育てがしやすい地域だと思う。そのような待機児童がゼロであることのPRをもう少し幅広く行うことも重要ではないか。子育てについては素晴らしい環境であることを、改めて高砂市の良さとしてPRすればいいのではないかという意見があった。

別の話になるが、従来から人口減少が続く中、これはもう避けて通れない。その中で、もう少し抜本的な思い切った施策として、誘致施策が挙げられる。企業等の誘致といった取組も検討していく必要があるのではないかという意見もあった。

(委員)

他のグループと重複する内容もあるが、まずは高砂市の人口展望の目標に対する実績値において、前回ワーキンググループでも話題になったとおり、5年後の目標値と今の実績値が同等であるため、自然減を意識すると目標の下方修正がどうしても必要になる。そのため、対策としては、どこか一つにフォーカスして取り組む必要があるのではないかという意見があった。

また、転出入について、特に高砂市からの転出先となった市町の現状把握や行政サービス、PRがどうなっているのか。また、ライフイベントでいう就職や結婚がある若い世代が、なぜ高砂市から他の市町に出て行ってしまうのかを掘り下げ、データの取得や現状把握、見える化をしていくことが必要ではないかという意見が出た。

肌感覚では認識していても、実際に何が一番の原因なのかがなかなか把握しづらいと思う。他市町の状況と高砂市を比べた際に、高砂らしさを活かしたうえで他の地域に負けない何かをつくっていく必要がある。子育て世代の方等が安心して移り住めるという意味で、どのようなことができるかを市の方でも検討していく必要があると考える。

いわゆる結婚というテーマにおいて高砂は非常に有名な地域である。結婚式場は私が思い当たるのが鹿島殿のみだが、そのようなところから広報やPRをしていく必要があると思う。

(会長)

いくつかのご意見とあわせてご質問があった。

まず1点目に、自然減を考えると、今の人口目標を修正せざるを得ないのではないか。現状の目標において自然減をどこまで見込まれているのか、場合によっては修正をする必要があるのではないかということ。

2点目として、20代の転出超過について、20代の前半と後半ではその意味合いが違ってくるのではないかと。また、高砂市と転出先の施策を比較してはどうか。これについてはなかなか調査ができていないことは聞いているが、何かお考えがあれば伺いたい。

3点目として、施設等の誘致が考えられないか。まずはサンモール跡地を何とかしなければならぬという思いもあろうかと思うが、その辺りはどうかというご質問だった。

そして最後にPRについて、高砂市が住みよいまちであることや待機児童がゼロであることなどをどのようにPRしていくのか。令和7年度の行政経営プランの中で、いわゆる柱事業となっている「暮らしたくなるまち」あるいは「住み続けたいまち」、「安心して子育てができるまち」と非常に関連がある部分である。何かお考えがあればお示しいただきたい。

(政策部長)

まず、人口展望については84,000人という目標に対して現在が84,100人というところを考えると、この5年後の目標値は見直さざるを得ないと考えている。

2点目の若者の転出について、平成27年と平成30年に高砂市で、転出入の理由についてアンケート調査を実施した。高砂市においては、全国的な傾向と同様に、就職・転職・転勤が主な理由となっており、結婚や進学が次いで理由となっている。20代においても前半、後半を問わず、おそらくこの就職・転職・転勤が理由として多いと考えている。

また、4点目のPRとも関連するが、我々行政として、施策を考える際には近隣市町の施策と高砂市の違いを分析している。結果としてほとんど差がなく、高砂市の方が充実している部分もあると把握している。ただし、それを上手く伝える方法、明るく、イメージをよくする伝え方、PR方法が課題であると思っている。

そして、思い切った施策、誘致については、高砂市ではまとまった土地が少ないことから、非常に難しいところであるが、行政としてどのようなサポートをしているかは、各課、対象の方々に向けて伝えていきたいと思っている。

(会長)

誘致にあたって、高砂市はまとまった土地が少ないとの話があった。実際には、土地はあるが市街化調整区域になっているところが多い。加西市では今年度市街化調整区域が廃止されるとのことだが、東播地区の海岸沿いについては、県や国が認めるかはわからない。誘致についてその観点ではどうか。

(技監)

市街化調整区域について、現在、高砂市は都市計画として進めている。その中でも農地の保全といった様々な規制、秩序があるが、インフラ整備については、ある程度人口が集中しているところをまずは優先的に整備していく。

また、高砂市は地域としては狭いが、臨海部には工業地帯、中ほどと山側には市街化調整区域がある。誘致をする場合は、その場所のインフラ整備がどれほど進んでいるかも重要である。誘致の話があっても、インフラ整備が追いついておらず、そこから整備をするのか否かという問題もある。

それらについては市全体として、どのようなまちづくりをするか、都市計画のマスタープランの見直しを進めている中で、今後20年のまちづくりに関する方向性を現在検討しているところである。

(会長)

今のご回答も含めてご質問、ご意見があればいただきたい。

(委員)

先ほど、転出先の市町との差を分析された結果、施策については他市町に負けておらず、もっと明るいPRが必要だとのことご答弁あったが、このグループでは、やはり何かあるのではないかという議論になった。差し支えなければ、施策として負けていない項目等、分析した内容を教えてもらえるか。

(政策部長)

具体的な項目については、現在持ち合わせがなく申し訳ないが、特に子育て施策については、子育て部門で、他市と施策を比較・分析している。

(会長)

先ほどお話があった待機児童がゼロであるといった事実もある。例えば、予防接種や医療費の無償化を何歳までやるのかといった項目が具体的な子育て施策になると思うが、それに関してはおそらくあまり差がないのだろうと思う。

なぜ高砂市に振り向いてもらえないのかという点で、一つはPR不足ではないかというのが市の分析だが、もしかするとそれも正しくない可能性もある。PR方法、伝え方がどうなのかというところまでは私も深く把握はしていないが、こういう伝え方をすればさらにPRできるといったところで、何かご意見あればお披露目いただければと思う。

(政策部長)

PRに関する決定打がなく、非常に困っているところである。市として努めているつもりだが、まだまだ取り組む必要があり、各方面からお知恵を借りていきたいと考えている。他市でどのようなイメージ戦略をしているのかを研究しているところである。魅力的な情報発信について、若者委員からも厳しいご意見をいただきながら、日々模索している段階である。

(会長)

先ほどの政策部長からのお話から引き出すのであれば、転出入の理由については調査があり、その中で一番の理由が就職だということ。そのため、イメージもさることながら、やはり働くところがあるか否かが本来的に重要ではないかということだと思う。

委員からお話があった、PR以外の何かという点で、先ほどの誘致というような言葉が出てくる

のかと考える。

この内容は、今後第1部会で様々な議論が出てくるかと思う。よろしく願います。

協議事項 6 第5次高砂市総合計画 KPI の見直しについて

(会長)

事務局から説明をお願いします。

(事務局)

資料に基づき、人口展望、重点評価指標、各政策における指標の見直しについて説明

(会長)

こちらもグループに分かれてご意見をいただきたい。基本目標が1から4までであるため、4グループでそれぞれ一つの基本目標について議論をお願いします。先ほどと同様に10分程度時間をとるので、よろしく願います。

<グループに分かれて意見交換>

(委員)

基本目標1について話し合った。政策の1-1の年間出生数に関連して、出産に係る診療報酬が定額制になってくることが見込まれており、出産いわゆる分娩を扱わない病院が今後出る可能性がある。この影響が少し出てくるのではないかという意見があった。

政策1-5の健康寿命について、案ではがん検診受診率への変更となっているが、別の指標を設定すべきだと考える。例えば、介護保険の認定で、要支援2までの人であればある程度自分のことができるため、そこまでは健康として区分し、健康状態を測る方法もあると考える。健康寿命の評価は重要だと考える。先ほどの介護認定等、総合的に活用していただきながら、高砂市では健康寿命についても取り扱ってほしい。

また、具体的な指標についてはではないが、政策1-3の多文化共生について、外国人の転入が多いということであるが、日本に来られたものの、日本語がほぼわからない方や日本の文化、制度に慣れていない方がいらっしゃる。何かしらの支援をしなければ、前に進めずに、躓いて取り残される方が出てくる。市の国際交流の方が関わっているが、支援すべき人が増えていることから、国際交流の人材が不足している。人材を増やすこととあわせて、外国から来た方が日本語を学ぶ、生活習慣を学ぶ場を作っていく必要があるとの意見が出た。

そして、子育てについて、待機児童はゼロになっているが、実際のところ、保育士の方が働く環境はどうか。園児に対する保育士の人数は決まっているが、障がいのない児童に対しての基準である。何らかの障がいをもつ児童も多く、保護者の方々も敏感になっているところがあるため、それも含めて保育士の方が本当に充足されているのかどうか。また、障がい等をもった児童が保育所に行く場合に看護師を配置しなければならない決まりもあると思う。職員配置についても指標としてではなくとも、何らかの施策、点検をしてほしいという意見が出た。

(会長)

KPIについて、代替の指標がとれるのではないかということ、KPIというのはアウトカムもしくはアウトプット指標を想像するが、保育士の数といったインプット指標もいいのではないか。つまり、待機児童がゼロといったアウトプットだけでなく、保育士が満足に働いているかといったインプットもKPIで取り上げていいのではないかというご意見かと思う。

(副会長)

このグループは基本目標2について話し合った。最初のところで話が集中し、政策2-1を中心に話した。空家バンクや道路については、特定の方が関わるところであり、全住民の満足度に関わるような指標も入れて欲しいという意見があった。

住環境については、日照権や騒音等、その環境がどのような意味なのかという話になった。

また、空家バンクに関する指標については、市街化区域内の新築件数に変更する案になっている。今後も空家はどんどん増えていくと思うため、空家の指標を完全になくしてしまい、注目する機会が失われるのは、よくないのではないかという意見も出た。実際の空家バンクの登録がどれほどあるのかが疑問にあり、登録までの流れや誰がチェックをして誰が進めているのか、また、指標を成約率にするといった検討も必要ではないかという意見が出た。

政策2-2の公共交通について、コミュニティバスの利用者が徐々に上がってきているところ、ルートの変更や便数等の変更がうまくいって増えているものだと思う。その増えた要因についてもチェックしてはどうかという意見も出た。

(会長)

まず、指標については、全住民が関わる指標も重要であるといった見方があった。

また、住環境と書いてあるが、枠組みが大きく、KPIに見える化するという観点から、もう少し具体が見える指標がよいのではないかというご意見だった。

コミュニティバスについては向上しているため、KPIの進捗率としてはよいが、その中身がどうなっているのかということが、KPIを考えるうえでの重要なポイントではないかというご指摘だと思う。

(委員)

基本目標3の暮らしと仕事について、全体的に話す時間がなく、NPO団体の登録件数から、地域交流センターにおける各種団体の活動件数への変更について議論が集中した。

市民活動等、様々な活動を見ていきたいということであれば、地域交流センターだけに拘る必要はない。例えば市内でイベントを実施している数や高砂市内の大きいイベントであれば後援申請をされると思うため、その後援申請の数などが、指標になり得ると思う。

(会長)

おそらく、測定しやすい数字ということでNPOの登録数を挙げられていると思うが、これを見直すときに地域交流センターだけに限定してしまうというのも全体が見えないのではないかということ。NPOの数だけでも全体は見えないが、その代わりに地域交流センターに関する指標だけでも全体は見えない。そこで何が使えるのかというと、後援申請といった件数を数えるともう少し幅広

く、かつ毎年とれそうなデータであるため、そのような指標も有効ではないかというご意見だと思
う。

(委員)

このグループは基本目標4で、行政に関わる場所であるため、項目として深い議論をしたところ
はほぼなく、内容の確認をしたところで終わった。

職員の自転車のヘルメット着用率が新規の指標になるという案について、市全体でもヘルメット
の着用を推進している中、率先して職員の方が実施されるのはよいことであるという意見が出た。

また、市民満足度で職員の方の接遇、行政サービスが高まっているところはとてもいい傾向で
あるという意見が出た。しかし、根本的な部分で、KPIの進捗率を数値化することで、市民の方々
がそれらの数字から何が見えるのかをもう少し突き詰めて話す必要があるのではないかという意
見も出た。

(会長)

それぞれ、変更・新規となる指標案についてご検討いただいた。自転車ヘルメットの着用は、義
務付けであるため、率先して公務員の方が取り組むのはとてもいいのではないかと具体的にご意
見をいただいた。

そして、KPIの進捗率をどう見るか。達成率を見るのは基本的なKPIの考え方だが、その変化の
度合いがどうなのか。例えば、徐々に上がっていくのがいいことなのか、あるいはある時に大きく
上がって水平になっていくのがいいのかなど、実は項目によって見方が違う。この辺りの説明も必
要ではないかということ。

単に目標を達成したからよいというだけでなく、無理やり数値だけを意識して達成率を満たすこ
とだけが市民のためになるわけではないため、その見方は重要だというご意見だと思う。

これらを踏まえて、まだまだご意見もあるかもしれない。今後もしお気づきのところがあった場
合、市としてはどのようなかたちで情報収集されるか。

(事務局)

今回いただいた意見については、もう一度内容を確認し、改めて市の方で精査する。

指標については、今回で最後の決定ではない。次回8月頃に、追加での審議会実施を予定して
おり、その中では、初めにご説明した重点評価指標についてもご意見をいただくことになると思
える。改めてご確認いただき、この指標はあまり適していないのではないかというようなご意見に
ついては次回の総合政策審議会にて追加でいただいてもよい。その他としてご意見をいただく時
間を設けたい。

(会長)

まだ結論までは時間があるとのこと。また、途中であってもよいので、8月頃の審議会までの間
に気づいたことや代替となる指標等のご意見は、自由に事務局の方にお寄せいただければと思
う。

協議事項 7 地域再生計画の効果検証について

(会長)

事務局から説明をお願いします。

(事務局)

資料に基づき、企業版ふるさと納税に係る地域再生計画の効果検証について説明

(会長)

70周年記念事業を実施したからといって、いきなり出生率が上がるとか、転出超過が抑えられるとか、それがなかなか難しいことは十分わかっているが、こうした事業の場合、何らかのパフォーマンスを確認するためにKPIを設定する。しかし、これが未達成だったため、この事業は役に立たないというほど政策ロジックが明確なものではない。

KPIとのずれはあるものの、可能性が見えたところで、この事業をやめてしまうことはしないというのが事務局の見解だが、いかがか。

(委員一同)

質問等なし

(会長)

皆さま領いていらっしゃるため、審議会では事務局のご提案を踏まえた評価になろうかと思う。

ですから、KPIそのものは達成していないが、やはり70周年を起点にしてこれからの高砂市のPRを進めていくということ。そして、高砂市に関心を持つ企業様がこれからも増えていくことは、将来的な転出超過の抑制や、高砂で定住する方が増えていくきっかけになる可能性はまだ秘めているのではないかということから、関心を持ってもらった企業があったことは評価できるのではないか。以上が一つの考え方と思うが、いかがか。

(委員一同)

異議なし

(会長)

それでは審議会の評価としては、KPIは達成していないが、効果はあったものとして、事務局案を前提として、企業版ふるさと納税をさらにPRしていき、企業が高砂市に関心を持ってもらうことは、先々にKPIの向上にもつながる可能性があるということに重きをおいた評価とする。

この評価の内容については、今私が申し上げた内容で事務局にてまとめた文章を作ってください、調整は私と副会長、事務局で行う。それをもって審議会の最終的な評価とする。

その他 今後のスケジュールについて

(会長)

事務局から説明をお願いします。

(事務局)

今後のスケジュールとして、例年であれば年度当初、中間、最終の全3回の審議会になるが、今年度は第5次高砂市総合計画後期基本計画の策定年度である。そのため、先ほど少し触れたとおり、8月に追加の総合政策審議会を開催したいと考えている。

日程は調整でき次第、できるだけ早く皆さまに通知しようと思っているため、可能な限りご参加いただきたい。

なお、行政経営プランの中間評価、最終評価については例年通り令和7年10月頃と令和8年2月頃を予定している。こちらも日程が決まり次第ご連絡するため、今年度1年間よろしくをお願いします。

(会長)

今のスケジュールについて何かご質問等あるか。

(委員一同)

質問等なし

(会長)

その他、事務局あるいは委員の皆さまから何かあるか。

なければ以上をもって審議会を終了する。